

常に選ばれる企業を目指し、
一步先を見据え、挑み続ける



東電化工業 株式会社
代表取締役社長 若泉 裕明

〒019-2401
大仙市協和船岡字善知鳥14-1
TEL: 018-892-3411
FAX: 018-892-3413
<https://azumadenka.co.jp/>

時代によってニーズが変化 必要とされる技術を開発

大仙市協和に本社と工場を持つ東電化工業株式会社。代表の若泉さんは三代目。創業者は祖父にあたる。

「めっき処理とは表面を金属で保護するための技術です。当社が現在行っているのは機能めっきと呼ばれるもの。部品に導通を取りため、ワイヤーボンディング※を打てるようになるためのものや、端子の部分を保護するために行うめっきもあります。創業当時に行っていた部品加工は今ではほとんどなく、現在は精密電子機器や電子制御の自動車の部品などがあります。」

技術革新が進み、さまざまな製品が開発されるが、そういった製品にはかならずめっき処理が必要であり、加工



の需要はなくならないと語る若泉さん。

「新しい製品や技術が進歩することで、メーカーからの要求事項は難しく、厳しくなります。全国にはめっき加工の企業は1,000社程度あるが、私たちはその中から選ばれるために技術開発に力を入れてきました。秋田は距離的なハンデがあり、短納期を売りにはできない。価格を下げて薄利にするのは自分たちが疲弊してしまう。だからこそ成長するには技術力を高めることが必要でした。」

※トランジスタ・集積回路(IC)の電極と、プリント基板・半導体パッケージの電極を接続する工程

前職の経験を活かし めっき加工の技術開発型企業として成長

若泉さんは同社に入社する以前、めっき薬品会社で営業を経験していたため、ある大手の電子機器メーカーから難しいめっき加工について相談を受けた際、現時点で存在しているめっきの薬品では実現ができないことに気づいた。

「私は前職での経験から薬品についての知識がありました。そこで、その技術を実現させ、必要な機能をもたらせるために、現存する薬品の組成に近い薬品を仕入れ、社内で開発を行いました。結果として、世界で当社でしかできない技術の開発に成功しました。めっき加工は川下のほうの仕事。」

①検査室や研究室が設けられ、技術開発のみならず、めっきの品質管理・分析も行われている。

②東電化工業が所有している太陽光パネル。中小企業による自己託送は東北初の試みだ。



でも、当社でしか実現できない技術を開発すれば、こちらがイニシアチブを取って単価設定ができる。これは開発型のめっき業者だからできたことです。」

コスト削減とSDGsへの取組 企業価値を高めるために

めっき加工は環境負荷が大きい事業だと話す若泉さん。「めっき処理には多くの水、電気、重油が必要です。水は井戸を掘り、経費を3分の1に抑えました。電気については、船岡工場に太陽光パネルを設置し、東北初の自己託送を行う申請が完了したところです。10月から送電開始を予定しています。」

残る重油についても、現在隣地を購入し、廃プラスチックを油化して工場の熱源として使用する計画を進めている。

「経営目標でコストを下げたいという思いがあるものの、今後もステークホルダーから支持され、選ばるために、環境負荷について考え、対処する姿勢が必要不可欠です。」

同社が急成長を遂げた背景には、選ばれるための組織づくりと技術開発、そしてSDGsへの具体的な取組がある。これからも地域を牽引する企業として、突き進む。



プラウブリツツ秋田等、各団体のスポンサーをしている。冠試合の際にはボランティアとして試合会場で運営をサポート。



「みんなの幸せをつくる会社」を目指し、行動指針を言語化した「AZUMAモデル」。



グループ会社である東商事株式会社では、独自ブランド「Cocopelli」を設立し、生鮮及び加工品の販売にも取組む。